

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

教職課程科目/2単位/T授業

担当教員	川上 はる江
■使用テキスト	文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」東京書籍 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な学習の時間」学校図書 中村豊 原清治著「特別活動」ミネルヴァ書房 森田真樹 篠原正典著「総合的な学習の時間」ミネルヴァ書房
◆参考テキスト	

講義概要・一般目標

特別活動，総合的な探究の時間を考慮しながら次の6点について学修する。

1. 学習指導要領における特別活動の目標，主な内容，教育課程における位置づけ
2. ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事の特質
3. 特別活動についての指導と評価の方法，その留意点
4. 学習指導要領における総合的な探究の時間の目標，主な内容，教育課程の位置づけ
5. 総合的な探究の時間における年間指導計画作成の仕方，単元計画の作成の仕方
6. 総合的な探究の時間についての指導と評価の方法，その留意点

到達目標

特別活動は，「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもちながら自主的，実践的に活動することを通して，集団活動の意義や行動の仕方，合意形成の仕方などの資質，能力を育成する。また，総合的な探究の時間は，探究的な見方・考え方を働かせ，よりよく課題を解決し，自己の在り方，生き方を考えていくための資質，能力を目指す。これらの教育方法上の特徴ゆえに，教科指導とは異なる役割を担っている。本授業では，下記の3点を目標に学修する。

1. 特別活動・総合的な探究の時間の意義，目標，内容を理解する。
2. 特別活動の指導方法を実践的に理解する。
3. 総合的な探究の時間の指導計画を作成し，指導と評価の考え方を理解する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

〔テキストの概要と学修のポイント〕

「学習指導要領解説 特別活動編」「学習指導要領解説 総合的な探究の時間」は理論的なことと、配慮事項の基本がまとめている。「特別活動」には、特別活動の理論や学校現場での授業の様子や環境構成に至るまでの具体が丁寧に示してある。学習指導要領で分かりにくい部分を補う上で効果的であるので、3冊を併用して学修することを勧める。更に学修を深めたい人は参考テキストの熟読を勧める。

1. 特別活動の目標と主な内容(第1章,第2章)

第1章では、特別活動の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至るのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。特別活動の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、特別活動が教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。具体的には、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、児童生徒の人間形成を図るとともに、社会で生きて働く際に必要な資質・能力を育てることを意図している。特別活動の特徴を記してあるところなので重要である。

2. 各活動,学校行事の目標及び内容(第3章)

教育課程では、高等学校の場合、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、で構成される。この授業では、高等学校に照準を合わせ、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれについて、その目標や活動内容、指導計画、内容の取り扱いなどの理解を深める。

テキスト「特別活動」に、学級活動の進め方、環境構成の仕方、指導案の書き方などの具体が写真や図入りで記述してあるので、学習指導要領と並行して読み進めると授業のイメージが分かり実践的理解を深めることができる。2冊を併用して学修することを望む。

3. 指導計画の作成と内容の取り扱い(第4章)

指導計画の作成に当たっての配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。指導と評価についての関連や、異年齢集団、高齢者との関わり方の重視、地域連携のあり方等についても記述してある。特別活動を生徒による主体的・対話的で深い学びにするためにどうするか、学級経営の充実と生徒指導との関連、道徳科との関連をどのように考えるかなどについて熟読し、要点をまとめながら学修を進めてほしい。

「学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」は理論的なことと、内容、配慮事項の基本がまとめている。

1. 総合的な探究の時間と主な内容(第1章)

第1章では、総合的な探究の時間の改定の主旨と要点が述べられている。どのような変遷を経て今に至ったのかを知った上で学修すると、今後の進むべき方向性が明らかになる。総合的な探究の時間の目標、意義は、学習指導要領解説の第2章に明示されており、教育課程内の重要で不可欠な位置を占めていることが分かる。

2. 総合的な探究の時間の目標及び内容(第2章,第3章,第4章)

ここでは、総合的な探究の時間の目標、特質に応じた学習の在り方、各学校において定める目標と内容の考え方を学修する。特に、探究的な見方、考え方や教科横断的・総合的な学習を行うことなど、詳細に説明があるので熟読を要する。各学校において定める目標及び内容については、今回の改訂で詳しく記述してあるので、要点をまとめておく必要がある。

3. 指導計画作成上の配慮事項と高等学校における総合的な探究の時間の意義(第5章,第6章)

各学校で定める目標を意識しながら総合的な探究の時間を実施するために、指導計画作成を作成する上での大きな配慮事項を学習する。また、高等学校における総合的な探究の時間の意義や生徒の発達段階にふさわしい内容、進路指導と学力育成について記述してある。小・中学校の総合的な学習の時間との共通点、差異点を整理しながら理解することが重要である。

4. 指導計画の作成と内容の取り扱い(第7章,第8章)

指導計画の作成に当たって配慮事項や内容の取り扱いについての配慮事項を中心に学修する。各学校が定める内容についての考え方や、求められる知識、技能についての学修、全体計画・年間計画の作成の仕方などについての基本的な考え方、探究的な学習するためのポイントについて記述してある。生徒による主体的・対話的で深い学びにするための単元の流れ、授業構成を考えながら学修を進めてほしい。

5. 総合的な探究の時間の評価と配慮事項（第10章，第11章）

総合的な探究の時間の評価の考え方，評価に基づいて活動を充実させるための体制作り，環境構成，地域との連携のあり方などの具体が説明してある。第11章では，総合的な探究の時間を充実させるための体制づくりとして校内組織の整備や年間授業時数の確保，弾力的運用，環境整備について記述している。外部と連携しながら進める探究活動の推進のために，具体を考えながら読むと分かりやすい。

学修の進め方

1. 添削課題出題の意図及び課題の進め方

添削課題は，「学習指導要領解説 特別活動編」「学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」「特別活動」から出している。添削課題には，特別活動，総合的な探究の時間を理解する上での基礎となる知識や考え方を問う問題と記述式問題を出題している。記述問題の配点を多くしているので，必ず記述すること。特に，ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事についてそれぞれの目標と内容をまとめておくこと，また，高等学校における総合的な探究の時間と総合的な学習の時間との比較をしながら学修することが大切である。

2. 添削課題をまとめるにあたっての留意点

課題をもらって「問題を見ながら答えが書いてあるページを探す」という方法は，理解も深まらず記憶にも残らない。概略も掴めていないので，配点の多い記述問題の部分が解けない。過去の解答を見ると，長文が書いてあっても的はずれの箇所を基に記述してあったり，完全に自分の意見であったりする場合が多いので減点となっている。目標を決めて熟読してほしい。

記述問題の配点は大きいので必ず，自分の言葉で簡潔にまとめること。

3. 効果的な学修の方法

テキスト「特別活動」及び「総合的な学習の時間」は「学習指導要領解説 特別活動編」と関連付けながら読み進めると効果的である。各章を丁寧に読みながら，学習指導要領で内容を確認する。そして，要点を整理しながらノートにまとめる。また，「学習指導要領解説 特別活動編」，「学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」は，大きくりのまとまりごとに熟読しておくこと。特に記述式の問題は，一読しておかないと解けない問題を出題している。計画的に章を決めて読み進めると良い。

4. フィードバックについて

フィードバックとして，提出された課題レポートにコメントを返す。